

仙人通信 173 笹子雁ヶ腹摺山(1358m)

笹子雁ヶ腹摺山は、国道 20 号・中央高速・JR の笹子トンネルの上に聳える山梨 100 名山の 6 番目・秀麗富岳 12 景の 4 番目の山で、3 等三角点の山でもある。

当初笹子峠に車を置き雁ヶ腹摺山と米沢山をピストンする計画であったが、前を走っていた大型トレーラーが、矢立の杉の手前のカーブが曲がり斬れずに脱輪し動けなくなり、急遽国道 20 号の分岐まで戻り、広場に車を置いて雁ヶ腹摺山→笹子峠→戻るコースとした。道標のある階段からのスタートである。檜林を踏み跡と幹に捲かれたピンクのテープを頼りに、九十九折の急坂を 20 分程詰めると、送電線の鉄塔のある尾根に出る。西側は檜等の芽吹き始めた落葉樹林であるが、東側は檜林が続く登りだ。紫のミツバツツジが散見されるも眺望は利かない。鉄塔から 25 分で恩 10(恩賜林の境界を示す 10 番目)の境界がある最初のピーク・更に 15 分程で 2 番目のピーク・7 分程下った恩 31 の鞍部だ。ここまでは、貝の化石の入った白亜系の小仏層であったが、甲府盆地を金峰山からフ字状に取り巻く、石英閃緑岩の岩質の山となる。東側も落葉樹林となり、隣の米沢山までの稜線が望める。キツイ登りを 20 分程詰めると、電波の反射板だ。ミツバツツジに山桜も加わり安らぎをくれる。西側の梢越しに、真っ白な北岳から農鳥岳が望めた。歩き始めてから 1 時間 45 分で山頂に立てた。山頂の周囲の木々が大きい為に梢越であるも、笹子峠への面だけが開け、前述の北岳から農鳥岳が・雪解けが進んでいる甲斐駒ヶ岳や千丈岳・残雪のない鳳凰三山だ。富士山も御坂山塊の後ろに梢越しに望めた。北面では、甲州高尾山を中心に秩父の山、そして大菩薩嶺から小金沢連峰の山々が確認出来た。休憩後、笹子峠に向かい下山である。ブナ・リョウブ・赤松等の梢越しではあるが、右下に甲斐大和の町や中央高速の日川橋が、その先に勝沼から甲府盆地も望めた。急な下りで黒いプラスチックの階段や閃緑岩を頼りに 20 分程で、恩 49 の鉄塔だ。鉄塔の先には、笹子峠から御坂へと連なる山々が・山頂にアンテナの立つ三つ峠そして御坂の山々だ。その上には富士山であるも、梢越で残念！。5 分程で尾根道とまき路の分岐だ。梢のない山々が見たい想いで、35 分を掛けて 3 つのピークを持つ尾根道を進んだが、梢が無くなる事は無かった。峠への下りは、風化した閃緑岩の粒状石のコースで鎖を頼り 20 分を要した。笹子峠は、甲斐と江戸を結ぶ甲州街道の最大の難所で、数々の歴史が脳裏を翳めた。笹子トンネルには、約 10 分で到着だ。

ここからは、国道や嘗ての甲州街道の面影が残る沢沿いのコースだ。黄色いアブラチャン・山桜・ミツバツツジの花、沢筋では瀬音や小鳥の囀り、そしてスマイル・エイザンスミレ・ヒトリシズカ・ハシリドコロ・ハルリンドウ等の花々に囲まれ、矢立の杉や明治天皇の野立の碑を見学し 1 時間で、車に戻った 4 時間 30 分(18000 歩)の春の山旅でした。(h30.4. 13)

山頂



山頂からの富士山



笹子峠



ミツバツツジ

